

## 韓国および台湾の日本語学習者のニーズ調査

著者	佐藤 友則
雑誌名	言語科学論集
巻	2
ページ	49-60
発行年	1998-11-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/30706">http://hdl.handle.net/10097/30706</a>

# 韓国および台湾の日本語学習者のニーズ調査

佐藤友則

キーワード： 就職、「話す」技能、実社会での日本語、問答形式、ビデオ

## 要 旨

韓国と台湾の日本語学習者を対象にニーズ調査を行い、それぞれの学習者のニーズを明らかにした。韓国の回答者は、「話す」技能を重視し、通訳能力の必要性を感じ、問答形式の授業を支持していた。台湾の回答者は、興味を目的にしている者が多く、会話全般の技能を重視し、コンピューターを用いた教育を希望していた。また、実社会で役立つ日本語能力へのニーズはともに高かった。

## 1. 研究の目的

日本語教育が行われている国のうち、韓国と台湾は歴史的な事情もあって日本語教育の歴史が古く、かつ現在でも日本語教育が盛んな国・地域である。また、韓国・台湾から日本へ来る留学生も多いので、日本国内での教育を考える際にもこの国・地域の学習者への配慮を忘れることはできない。よって韓国・台湾の日本語学習者のニーズを把握することは、それぞれの国・地域での教育を考えるうえでも、日本国内での教育を考えるうえでも非常に価値がある。

ニーズ調査は、コースデザイン作成の際の重要な情報源であり、教育の出発点である。学習者のニーズおよび問題点を把握し、それに応えられるかどうかは、学習者の言語習得の成功に大きく関係する。そこで本稿では、韓国・台湾の日本語学習者にニーズ調査を行い、それぞれの学習者のニーズを把握し、それを今後の効果的な日本語教育へつなげたいと考えた。そのために、韓国・台湾の学習者計 1,385 名のデータを入手・集計し、それぞれのニーズを明らかにした。

## 2. 研究の方法

本稿の調査票は、『日本語教育機関におけるコースデザイン』の調査票を、韓国・台湾の日本語学習者の実情に合うように修正・削除し、新たに「週授業時間」「クラス人数」「授業スタイル」を追加して作成したものである(巻末の付録参照)。

韓国の回答者は、全北大学校(全州)の 244 名、釜山水産大学校(釜山：現在の釜慶大学校)の 129 名、東亜大学校(釜山)の 19 名、大田産業大学校(大田)の 82 名、高麗大学校(ソウル)の 185 名、中央大学校(ソウル)の 121 名の、計 780 名である。全北大学校、大田産業大学校、高麗大学校、中央大学校の回答者の専門は、日本語・日本文学、東亜大学校・釜山水産大学校の回答者の専門は、経済学・水産学等である。なお、回収したが未記入等で無効となったデータもあるため、韓国での有効回収率は 90.8%であった(韓国での全データ数 859)。台湾の回答者は、東呉大学(台北)の 176 名、輔仁大学(台北)の 205 名、南台技術学院(台南：5 年生の工科専門学校)の 224 名の計 605 名である。東呉大学・輔仁大学の学習者の専門は、日本語・日本文学、南台技術学院の学習者の専門は工学である。しかし、韓国・台湾ともに、日本語を専門とする大学での調査でも他学科の回答者も参加していたため、日本語・日本文学専門の学習者のみとは言えない。台湾での有効回収率は 72.9%である(全データ数 830)。また回答者の年齢は 19 歳から 27 歳の間である。

今回の研究では、学習時間により、日本語能力を初級または中上級に区別した。学習時間「300 時間以上」を選択した回答者は中上級学習者とみなし、その学習者のデータを全集計結果よりソートして集計した。今回、特に中上級学習者をソートしたのは、韓国および台湾の高等教育機関で相当数に及ぶ中上級学習者のニーズを詳しくとらえ、それに応える必要性を感じたためである。また、全体と並べて表示することにより、中上級学習者のニーズがより鮮明になるのではないかと考えた。なお、学年によるレベル分けを行わなかったため、回答者の学年は質問しなかった。また男女の区別に関する質問も設けなかった。

調査は、回答者に調査票を配布して記入させ、その後回収する方法で行った。調査時期は、1996 年 6 月から 1998 年 4 月の間である。全北大学校は本稿執筆者が担当し、他の教育機関は研究協力者に依頼して実施した。この形態で実施したこともあり、調査期間が長くなった。調査票には、日本語能力が低い学習者に配慮し、日本語と韓国語、または日本語と中国語の併記をした。

### 3. 集計結果

#### 3. 1. 結果の表示

以下に韓国 780 名、台湾 605 名そして韓国の中上級学習者(韓中上と表示)162 名、台湾の中上級学習者(台中上と表示)305 名の集計結果を表形式で表示する。調査票は全 12 項目からなるが、そのうち 9 項目の結果をあげる。表の ( ) 左の

数値は実数、( )内の数値は比率である。比率は下1桁のパーセント表示をした。

なお、各カテゴリー間の比率の差の検定を、一標本の検定を用いて行った。その結果、韓国計・台湾計・韓中上・台中上の4分類全てで、各カテゴリーの比率の間に0.1%水準の有意差が認められた(自由回答の3.5.「日本語能力の実態とその必要性」と複数回答の3.8.「教育機材」を除く項目において)。

まず以下に、日本語学習経験と学習時間をあげる。

[表1] 日本語学習経験および学習時間

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
学習経験 ①ある	545(69.9)	162(100)	556(91.9)	305(100)
②ない	235(30.1)	0	49(8.1)	0
学習時間 ①50時間以内	90(16.5)	0	18(3.2)	0
②50~100時間	109(20.0)	0	97(17.5)	0
③100~200時間	109(20.0)	0	70(12.6)	0
④200~300時間	75(13.8)	0	64(11.6)	0
⑤300時間以上	162(29.7)	162(100)	305(55.1)	305(100)

### 3. 2. 学習目的

[表2] 日本語学習目的

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
①就職	278(35.6)	73(45.1)	136(22.5)	80(26.2)
②進学	52(6.7)	12(7.4)	85(14.0)	35(11.5)
③留学	59(7.6)	14(8.6)	29(4.8)	21(6.9)
④旅行	19(2.4)	1(0.6)	27(4.5)	15(4.9)
⑤興味	275(35.3)	43(26.5)	264(43.6)	117(38.4)
⑥その他	97(12.4)	19(11.7)	64(10.6)	37(12.1)

この項目の韓国計では、①就職を選んだ回答者と⑤興味を選んだ回答者の差は比率で0.3ポイント(以下ptと表示)しかなく、非常に近い。しかし、韓中上では興味が多くなく、半数近い45.1%の回答者が就職を学習目的としている。②進学③留学④旅行は、韓国計・韓中上ともに10%に満たない。

台湾計では、興味を選んだ回答者が就職を選んだ回答者の約2倍いる。台中上でも興味が最も支持されており、就職より12.2pt多い。一方、進学を選んだ回答者は台湾計・台中上ともに10%以上いるが、留学を選んだ者は韓国より少ない。

なお、韓国計と台湾計の差を $\chi^2$ 乗検定を用いて検定したところ、1%水準で有

意であり、母集団である韓国・台湾の学習者全体においても、韓国では就職を、台湾では興味をより大きな学習目的にしていると言える。また中上級学習者にも同様の検定を行ったところ、韓中上と台中上の間にも1%水準の有意差がみられた。

### 3. 3. 英語能力の自己評価

英語能力について、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能につき、初級か中級か上級かを質問した。この項目では、韓国計と台湾計についてのみ述べる。

[表 3] 英語の4技能における自己評価

	韓国計	台湾計
読む：上級	114(14.6)	25(4.1)
中級	453(58.1)	377(62.3)
初級	213(27.3)	203(33.6)
書く：上級	39(5.0)	12(2.0)
中級	369(47.3)	319(52.7)
初級	372(47.7)	274(45.3)
聞く：上級	34(4.4)	16(2.6)
中級	280(35.9)	242(40.0)
初級	466(59.7)	347(57.4)
話す：上級	24(3.1)	12(2.0)
中級	199(25.5)	227(37.5)
初級	557(71.4)	366(60.5)

韓国計で注目すべき点は、「読む」で上級または中級と答えた回答者(計72.7%)と「話す」で初級と答えた回答者(71.4%)の数が非常に近い点である。また、「聞く」と「話す」の中級を比べても、「聞く」を中級とした回答者が10.4pt多く、自分の「話す」能力を初級と考えている回答者が非常に多いことが分かる。台湾計でもある程度同じ傾向がみられるが、「話す」の初級は韓国計より10.9pt少ない。また、台湾計で「話す」中級と答えた回答者は、全体の1/3以上の37.5%おり、韓国計ほど「話す」の初級に集中していない。台湾計で、上級または中級とした回答者をみると、「読む」計66.4%・「書く」計54.7%・「聞く」計42.6%・「話す」計39.5%と、4技能間の差異は26.9ptである。このうち、「聞く」と「話す」の差異が小さい(3.1pt)点が注目される。一方、韓国計で上級または中級とした回答者は、「読む」計72.7%・「書く」計52.3%・「聞く」計40.3%・「話す」計28.6%と、差異が44.1ptになり、技能間の偏りが台湾計より大きい。特に「聞く」と「話す」の差異が大きい(11.7pt)。

$\chi^2$  乗検定を行った結果、1%水準の有意差をもって、韓国計が台湾計より「読む」の上級、「話す」の初級で多く、台湾計が韓国計より「読む」の初級、「書く」「話す」の中級で多かった。「聞く」では韓国計と台湾計の間に有意差はなかった。

### 3. 4. 4 技能の重要度

[表4] 最も重要な技能

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
読む	75(9.6)	15(9.3)	40(6.6)	21(6.9)
書く	9(1.2)	1(0.6)	11(1.8)	8(2.6)
聞く	131(16.8)	28(17.3)	174(28.8)	91(29.8)
話す	565(72.4)	118(72.8)	380(62.8)	185(60.7)

韓国計では、「話す」技能を最も重視した回答者が72.4%おり、他の3技能を圧倒している。これは韓中上でも同様である。台湾においても「話す」技能重視の傾向は見られるが、韓国と大きく異なる点は、30%弱の回答者が「聞く」技能も重視している点である。台湾計・台中上ともに、韓国計・韓中上より約12pt多く「聞く」を重視しており、台湾では韓国よりも「聞く」技能を重視していることが分かる。

$\chi^2$  乗検定の結果を見ても、1%水準の有意差をもって、「話す」で韓国計・韓中上がそれぞれ台湾計・台中上よりも多く、「聞く」で台湾計・台中上が韓国計・韓中上よりも多いことが分かった。

### 3. 5. 日本語能力の実態とその必要性

この項目では、様々な日本語能力について、回答者が「できる」とした結果を上段に、「必要」とした結果を下段に表示した。なお、「できる」けれど「必要」でもあると考える能力には両方チェックさせ、できないし「必要」も感じない能力には何も書かないように指示した。なお、この表では、比率の数値で80%を超えるものは太字で表示した。

[表5] 日本語能力の実態とその必要性(自由回答)

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
簡単な質問をする (できる)	498(63.8)	<b>156(96.3)</b>	<b>510(84.3)</b>	<b>295(96.7)</b>
(必要)	273(35.0)	7(4.3)	243(40.2)	99(32.5)
テレビや車内の (できる)	85(10.9)	46(28.4)	80(13.2)	64(21.0)
放送が分かる (必要)	<b>673(86.3)</b>	116(71.6)	<b>537(88.8)</b>	<b>261(85.6)</b>
ホテルの予約を (できる)	164(21.0)	82(50.6)	154(25.5)	115(37.7)
して旅行する (必要)	554(71.0)	76(46.9)	481(79.5)	221(72.5)

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
公共機関で (できる)	77(9.9)	53(32.7)	39(6.4)	33(10.8)
受け答えする (必要)	<b>655 (84. 0)</b>	108(66.7)	<b>549 (90. 7)</b>	<b>273 (89. 5)</b>
仕事場で日本語を (できる)	53(6.8)	35(21.6)	40(6.6)	31(10.2)
使う (必要)	<b>673 (86. 3)</b>	124(76.5)	<b>564 (93. 2)</b>	<b>284 (93. 1)</b>
日本人と親しく (できる)	97(12.4)	53(32.7)	110(18.2)	82(26.9)
付き合う (必要)	<b>656 (84. 1)</b>	112(69.1)	<b>487 (80. 5)</b>	235(77.0)
出入国・ビザ等の (できる)	71(9.1)	39(24.1)	69(11.4)	54(17.7)
話をする (必要)	<b>640 (82. 1)</b>	121(74.7)	<b>553 (91. 4)</b>	<b>277 (90. 8)</b>
電話で受け答えする(できる)	171(21.9)	83(51.2)	209(34.5)	164(53.8)
(必要)	579(74.2)	77(47.5)	461(76.2)	206(67.5)
人に頼みごとをする(できる)	287(36.8)	126(77.8)	335(55.4)	223(73.1)
(必要)	429(55.0)	34(21.0)	334(55.2)	139(45.6)
人を誘う／ (できる)	202(25.9)	91(56.2)	248(41.0)	179(58.7)
誘いを断る (必要)	509(65.3)	67(41.4)	397(65.6)	171(56.1)
日本や自分の国に (できる)	159(20.4)	78(48.1)	73(12.1)	60(19.7)
ついて話す (必要)	577(74.0)	85(52.5)	462(76.4)	217(71.1)
敬語を使って話を (できる)	110(14.1)	49(30.2)	206(34.0)	145(47.5)
する (必要)	605(77.6)	110(67.9)	429(70.9)	197(64.6)
自分の専門の講義を(できる)	126(16.2)	61(37.7)	164(27.1)	122(40.0)
聞く／発言する (必要)	592(75.9)	101(62.3)	457(75.5)	219(71.8)
新聞・雑誌を読む (できる)	143(18.3)	65(40.1)	152(25.1)	118(38.7)
(必要)	615(78.8)	96(59.3)	<b>497 (82. 1)</b>	232(76.1)
手紙を読む／書く (できる)	270(34.6)	108(66.7)	284(46.9)	215(70.5)
(必要)	490(62.8)	53(32.7)	380(62.8)	150(49.2)
病院に一人で行く (できる)	128(16.4)	65(40.1)	122(20.2)	98(32.1)
(必要)	582(74.6)	94(58.0)	467(77.2)	214(70.2)
研究論文・レポートを(できる)	71(9.1)	31(19.1)	27(4.5)	21(6.9)
読む／書く (必要)	<b>638 (81. 8)</b>	<b>130 (80. 2)</b>	<b>515 (85. 1)</b>	<b>268 (87. 9)</b>
会社での資料・報告書を(できる)	54(6.9)	28(17.3)	29(4.8)	20(6.6)
読む／書く (必要)	<b>657 (84. 2)</b>	<b>130 (80. 2)</b>	<b>539 (89. 1)</b>	<b>279 (91. 5)</b>

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
使える言葉の量を (できる)	178(22.8)	64(39.5)	150(24.8)	114(37.4)
増やす (必要)	576(73.8)	98(60.5)	<b>495 (81. 8)</b>	233(76.4)
漢字・熟語を (できる)	195(25.0)	65(40.1)	173(28.6)	116(38.0)
身につける (必要)	539(69.1)	95(58.6)	450(74.4)	214(70.2)
自然な発音・ (できる)	48(6.2)	26(16.0)	114(18.8)	88(28.9)
イントネーションで話す (必要)	<b>702 (90. 0)</b>	<b>135 (83. 3)</b>	<b>513 (84. 8)</b>	243(79.7)
通訳ができる (できる)	26(3.3)	22(13.6)	50(8.3)	42(13.8)
(必要)	<b>712 (91. 3)</b>	<b>135 (83. 3)</b>	<b>543 (89. 8)</b>	<b>274 (89. 8)</b>

まず韓国計から述べていくと、最も必要な能力とされたのは「通訳ができる」(91.3%)であり「自然な発音・イントネーションで話す」(90.0%)がそれに続いた。この他に80%以上の回答者に必要とされたのは、「テレビや車内の放送が分かる」「仕事場で日本語を使う」「会社での資料・報告書を読む/書く」などの7項目で、仕事など実社会での使用に関する日本語能力が多かった。一方、「できる」とされた率が10%以下つまり難しいとされた能力は、前出の「通訳」「自然な発音」など必要とされた能力と重なっており、習得も難しいことがうかがえる。また、「簡単な質問をする」「人に頼みごとをする」「手紙を書く/読む」は、30%以上の回答者が「できる」とした。次に韓中上の結果を見ると、やはり「自然な発音・イントネーションで話す」と「通訳ができる」が最も必要とされており、韓国の回答者はこの2項目を特に必要視していることが分かる。他に80%以上必要とされたのは「会社での資料・報告書を読む/書く」「研究論文・レポートを読む/書く」の2つだった。韓中上では多くの能力が「できる」とされたが、特に「ホテルの予約をして旅行する」「電話で受け答えをする」「人を誘う/誘いを断る」は50%以上の回答者が「できる」とした。

台湾計の結果では、トップの「仕事場で日本語を使う」(93.1%)を含め、「出入国・ビザ等の話をする」「公共機関で受け答えする」の3項目が90%以上の回答者に必要とされた。また80%以上の回答者が必要とした項目も、上記の3つの他「会社での資料・報告書を読む/書く」「テレビや車内の放送が分かる」「新聞・雑誌を読む」「日本人と親しく付き合う」など実社会で有用な日本語能力が多かった。台中上では、80%以上の回答者が必要とした能力は台湾計と非常に似ており、3項目が70%代に落ちただけだった。しかしその3項目のうちの1つが、韓国では特に必要視された「自然な発音・イントネーションで話す」(79.7%)で、22の能力の中での順



位も 8 位だった(韓中上では 1 位)。また 28.9%の回答者が「自然な発音」が「できる」としており、これは韓中上の 16.0%と比較すると 12.9pt 高い数字である。なお、台湾計でも 18.8%の回答者が「できる」としている(韓国計では 6.2%)。

### 3. 6. クラスの人数

[表 6] 最も望まれるクラス人数

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
① 1~9 人	258(33.1)	71(43.8)	112(18.5)	52(17.0)
② 10~14 人	252(32.3)	54(33.3)	168(27.8)	93(30.5)
③ 15~19 人	167(21.4)	26(16.0)	165(27.3)	74(24.3)
④ 20~30 人	90(11.5)	10(6.2)	119(19.7)	59(19.3)
⑤ 30 人以上	13(1.7)	1(0.6)	41(6.8)	27(8.9)

この項目では、韓国計の 14 人以下、つまり①と②の合計が回答者の約 2/3 以上の 65.4%になり、韓国の回答者が少人数クラスを非常に強く望んでいることが分かる。この傾向は韓中上でさらに顕著で、① 1~9 人の少人数クラス支持が 43.8%と抜きんでて多く、⑤ 30 人以上の大人数クラス支持は 1%にも満たない(0.6%)。一方、台湾の回答者は必ずしも少人数クラス支持ではなく、①から④までの 4 カテゴリーに支持が広く分散している。台中上では② 10~14 人支持がやや多いが、やはり分散しており、⑤ 30 人以上クラス支持が 8.9%と韓中上より 8.3pt 多い。

$\chi^2$  乗検定の結果を見ても、0.1%水準の有意差をもって、1~9 人の少人数クラスで韓国計・韓中上がそれぞれ台湾計・台中上より多く、30 人以上の大人数クラスで台湾計・台中上が韓国計・韓中上より多いことが分かった。

### 3. 7. 授業スタイル

[表 7] 最も望まれる授業スタイル

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
①講義形式	49(6.3)	6(3.7)	60(9.9)	24(7.9)
②問答形式	450(57.7)	89(54.9)	381(63.0)	190(62.3)
③一人での発表	6(0.8)	1(0.6)	6(1.0)	3(1.0)
④グループでの発表	97(12.4)	10(6.2)	55(9.1)	29(9.5)
⑤討論形式	178(22.8)	56(34.6)	103(17.0)	59(19.3)

この項目では、4 つの分類全てで②問答形式への支持が最も多く、⑤討論形式がそれに続く点も共通していた。教師との問答形式は、「実際の会話の疑似体験ができる」、「発音の矯正をしてもらえる」等の理由で人気がある。2 番目に支持され

た討論形式は、韓中上および台中上で支持が多いように、日本語能力がある学習者に支持されている授業スタイルである。

また、 $\chi^2$ 乗検定の結果、1%水準の有意差をもって、問答形式で台湾計・台中上が韓国計・韓中上より多く、討論形式で韓国計・韓中上が台湾計・台中上より支持されていることが明らかになった。

### 3. 8. 教育機材

[表 8] 望まれる教育機材(複数回答:3つ選択)

	韓国計	韓中上	台湾計	台中上
①テープ	596(76.4)	119(73.5)	481(79.5)	235(77.0)
②ビデオ	748(95.9)	158(97.5)	547(90.4)	275(90.2)
③コンピューター	247(31.7)	56(34.6)	380(62.8)	194(63.6)
④OHP	137(17.6)	25(15.4)	138(22.8)	68(22.3)
⑤絵教材	396(50.8)	69(42.6)	227(37.5)	112(36.7)
⑥その他	58(7.4)	18(11.1)	37(6.1)	24(7.9)

この項目では、4分類共通して②ビデオに対する支持が90%以上と非常に多く、改めてビデオの有効利用の必要性を痛感させられる。ビデオに続くのが①テープであり、これも4分類全てで70%代という高い支持を得た。しかし、この項目の結果で最も注目される点は、③コンピューターの支持についてである。韓国では、韓国計・韓中上ともに30%前半の支持であるのに対し、台湾では台湾計・台中上ともに60%以上で、韓国の2倍近く支持されている。その他、④OHPは韓国よりも台湾での支持が多かったが、全体的にあまり支持されていない。⑤絵教材は、韓国計では半数以上の回答者に支持されているが(50.8%)、台湾計では韓国計よりも支持が少なく(37.5%)、台中上とともに30%代の支持だった。

### 4. 考察と今後の課題

以上、結果をあげてきたが、それらに対する考察をここで述べる。

学習目的では、就職と興味の2つに絞られたが、韓国では就職を、台湾では興味を目的にしている回答者が多かった。現在、就職状況が厳しい韓国では、英語と並び日本語の習得が就職に有利に働くこと、一方、台湾では音楽・映画等日本文化が人気があり、衛星放送が普及していることもこの結果と関係があると考えられる。

英語能力自己評価では、韓国では「読む」を中上級、「話す」を初級とした回答者が多かった。台湾でも同様の傾向があるが、4技能の偏りが韓国より小さかった。

4 技能の重要度では、韓国では「話す」技能が圧倒的に重要視されていた。韓国の日本語教育の現場では、「話す」活動の比重が小さく「読む」活動の比重が大きいため、その反発からこのように「話す」技能重視に偏った結果になったと予想される。台湾でも「話す」技能が最も支持されていたが、「聞く」技能もともに支持されていた。英語能力自己評価で「聞く」と「話す」の差異が小さかったこととあわせ考えると、台湾の学習者は「話す」「聞く」という会話に関する技能をともに重視していると評価できる。なお、『日本語教育機関におけるコースデザイン』での日本国内の学習者 88 名を対象にした調査(1986 年)でも、「話す」が 59.0%と最も重要視されていた。これは台湾の結果と近い数字である。

日本語能力の実態とその必要性では、韓国では通訳能力および自然な発音・イントネーション習得への強い要望が感じられた。他に「仕事場で日本語を使う」など、実社会での使用に関する能力が必要視された。台湾でも日本国内での仕事などの実用的な能力が必要視され、最初の学習目的で興味と答えた回答者が多かった事とあわせ考えると、台湾の回答者は、仕事も含めた日本社会そのものに興味を持ち、そのうえでの日本語学習という視点を持っているのではないかと予想される。

この項目で必要とされた能力の順番を比較してみると、「通訳ができる」「仕事場で日本語を使う」「会社での資料・報告書を読む/書く」の3つは、韓国計でも台湾計でも上位5位に入っていた。これは、韓中上・台中上でも同様の結果であり、この3つの実社会での使用に関する能力は、韓国・台湾を問わず必要視されていることが分かった。次に、韓国計で必要順位が高く台湾計でそうでもないものをみると、「自然な発音・イントネーション」(韓2位・台8位)、「日本人と親しく付き合う」(韓6位・台11位)などがあげられる。逆に、台湾計で高く韓国計でそうでもないものは「出入国・ビザ等に関する話をする」(台2位・韓8位)、「公共機関で受け答えする」(台3位・韓7位)などだった。韓中上と台中上での必要順位の差異は、韓国計・台湾計の差異とほぼ同様の結果だった。よって台湾では「自然な発音・イントネーション」への必要度があまり高くないこと、韓国では日本の空港・公共機関等での日本語使用がそれほど重要視されていないことが分かった。

なお、『日本語教育機関におけるコースデザイン』の国内での調査では、「敬語を使って話をする」が必要順位1位であったが、本稿の調査では韓国計で11位、台湾計で18位と、それほど必要視されなかった点も注目される(韓中上9位・台中上18位)。これは、日本国内でのような日本語の敬語の使用機会が少ないため、また、回答者がまだ学生であり、会社ほか一般社会での敬語使用をあまり体験し

ていないことも関係していると考ええる。

クラス人数では、韓国では1~9人といった少人数クラスが非常に強く支持されていたが、台湾ではそうでもなく、支持がいくつか分散していた。韓国・台湾ともに60人を超える大人数クラスは一般的に存在するが、この結果により、この状況の変革を強く望んでいるのは韓国の学習者であり、台湾の学習者の中には、必ずしも少人数クラスでなくてもいいとする者がいることが分かった。

授業スタイルでは、韓国・台湾ともに問答形式への支持が最も高く、討論形式がそれに続いた。最も支持された問答形式は、効果的に実施できれば優れた授業になるが、少人数クラスでなければ効果をあげることが難しいので、現実的に大人数クラスが多い韓国・台湾の初級授業では実施の際に特別な工夫が必要になる。

教育機材では、ビデオに対する支持が非常に高く、ビデオを有効に利用した授業が望まれている。テープも従来通り支持されていた。また、台湾では韓国よりもコンピューターを用いた教育(CAI)が支持されていた。これは、台湾では現在CAIが少しずつ学習者の間に浸透し、要望が強くなってきているのに対し、韓国ではまだCAIそのものがあまり認識されておらず、学習者の要望も強くないためと考える。OHPへの支持はともに少なかった。

このように見てくると、韓国・台湾の日本語学習者のニーズおよび抱えている問題点が把握できてくる。ここで明らかになったニーズおよび問題点と韓国・台湾の日本語教育の現状を照らし合わせると、その間にはまだ大きな溝が存在していることを感じる。しかし、学習者達が望んでいることは、自己中心的なニーズではなく、自己の日本語能力を高めるための建設的なニーズである。よって、このニーズに少しずつ応えていく努力が必要であると考ええる。現在、韓国および台湾で日本語教育に携わっている教師に、コースデザインの作成または変更の際にこの結果を参考にしてもらえれば何よりと考える。

今後の研究の課題としては、本稿では300時間以上学習したと答えた者を中上級学習者とみなしたが、本来は客観的な日本語能力テストを実施し、その結果をもとに初級・中級・上級のレベル分けを行うべきであった。また、学年・男女比などの基本的情報に関しても質問し、回答を得る必要があった。さらに、調査期間が1年10ヶ月という長期にわたったことも、情報の信頼性という点で問題がある。今後はこういった問題点を修正し、オーストラリアや日本国内の日本語学習者にもニーズ調査を実施していきたい。

## 付録：調査票原本(日本語版)

## 日本語学習に関するニーズ分析

1. 何のために日本語を勉強していますか。(1つだけチェックしてください)  
 ①就職のため ②国内での進学のため ③留学のため ④旅行のため ⑤興味から ⑥その他
2. 日本語学習経験
- 2-1 日本語を勉強したことがありますか。 ①ある ②ない
- 2-2 勉強したことがある方は、どこで勉強しましたか。(複数解答可)  
 ①高校 ②大学 ③塾 ④日本の学校 ⑤一人で ⑥その他 ( )
- 2-3 何時間ぐらい勉強しましたか。  
 ① 50 時間以内 ② 50～100 時間 ③ 100～200 時間 ④ 200～300 時間 ⑤ 300 時間以上
3. 外国語学習経験および能力
- 3-1 日本語以外に外国語を学んだことがありますか。(複数解答可)  
 ①英語 ②中国語 ③ドイツ語 ④フランス語 ⑤その他 ( ) 語
- 3-2 英語がどのくらいできますか。(上級→上、中級→中、初級→初)  
 「読む」 上・中・初 「書く」 上・中・初  
 「聞く」 上・中・初 「話す」 上・中・初
4. 「読む」「書く」「聞く」「話す」の4つの技能のうち、どれを中心に勉強したいですか。もっとも希望する技能にチェックしてください。 「読む」 「書く」 「聞く」 「話す」
5. 次の中で、あなたができることをA欄に、自分に必要なことをB欄にチェックしてください。
- | A                       | B | A                | B |
|-------------------------|---|------------------|---|
| 簡単な質問をする(時間・場所等)        |   | テレビや車内の放送が分かる    |   |
| ホテルの予約をして旅行する           |   | 公共機関で受け答えする      |   |
| 仕事場で日本語を使い、コミュニケーションする。 |   | 日本人と親しくつきあう      |   |
| 出入国・ビザ等に関する話をする         |   | 電話で受け答えする        |   |
| 人に頼みごとをする               |   | 人を誘う／誘いを断る       |   |
| 日本あるいは韓国について話す          |   | 敬語を使って話をする       |   |
| 自分の専門の講義を聞く／発言する        |   | 新聞・雑誌を読む         |   |
| 手紙を読む／書く                |   | 病院に一人で行く         |   |
| 研究論文・レポートを読む／書く         |   | 会社での資料・報告書を読む／書く |   |
| 使える言葉の量を増やす             |   | 漢字・熟語を身に付ける      |   |
| 自然な発音・イントネーションで話す       |   | 通訳ができる           |   |
6. 1 週間の授業は何時間ぐらいが適当ですか。  
 ① 10 時間以下 ② 約 15 時間 ③ 約 20 時間 ④ 約 25 時間 ⑤ 25 時間以上
7. クラスの人数は何人ぐらいが適当ですか。  
 ① 1～9 人 ② 10～14 人 ③ 15～19 人 ④ 20～30 人 ⑤ 30 人以上
8. 日本語を学ぶ時、どんな授業スタイルがいいですか。(1つだけチェックしてください)  
 ①講義形式(教師が一人で話す) ②教師と学生の間答形式 ③一人での発表形式  
 ④グループでの発表形式 ⑤討論形式
9. 授業で使って欲しい教育機材を3つ選んでください。  
 ①テープレコーダー ②ビデオ ③コンピューター ④OHP ⑤絵教材 ⑥その他

## 参考文献

- 佐藤友則 1997 「韓国の大学の日本語学習者に対するニーズ分析」『日本学報』39号  
 韓国日本学会編
- 日本語教育学会 1991 『日本語教育機関におけるコースデザイン』 凡人社
- 中西・茅野 1991 『日本語を教える3 実践日本語教授法』 バベルプレス
- 田中・斎藤 1993 『日本語教育の理論と実際 学習支援システムの開発』 大修館